

平成28年度 学校評価実施報告書

学校番号 33

学校名 千葉県立船橋法典高等学校

課程名 全日制の課程

領域	自己評価の結果 (達成状況, 結果の分析)	改善方策 (自己評価の結果を踏まえた課題・改善の方向)
学校経営	<p>1 教育活動のさらなる充実による「信頼される学校づくり」について</p> <p>① ホームページの更新を適宜行い情報発信することができた。特に中学生とその保護者に関心の高い TOPICS の更新については、4月～1月末で、124回(月平均12.4回)であった。</p> <p>② 若手モラルアップ委員会の活動は複数回に及んだが、不祥事防止研修の企画運営には、若手の委員会ではなく、別組織のモラルアップ委員会があたった。</p> <p>③ 中学校訪問の対象校を柏市内まで拡大して実施した。また、中学生対象の学校説明会は、夏秋の二回の合計で、1084人の参加があった。</p> <p>④ 自己啓発指導重点校解除後も引き続き、生徒の実態に合わせ一人一人を大切にする、きめ細かな指導が行われた。</p>	<p>① 外部からも高い評価が得られているので、引き続き、学校ホームページの充実につとめる。</p> <p>② 不祥事防止研修の企画運営だけでなく、職員の士気向上のための職場としての取り組みの工夫についても、若手モラルアップ委員会を機能させる。</p> <p>③ 柏方面への中学校訪問は広報拡大の意味もあり継続していく。学校説明会の29年度については、体育館の工事が入るため、開催方法の工夫が必要である。</p> <p>④ 今後とも丁寧な生徒指導に力点を置く。</p>
	<p>2 共通理解と情報の共有化に基づく校務遂行体制の確立について</p> <p>① 学年会議を毎週定例で行うほか、分掌会議、教科会議についても適宜開催し、具体的な学校の課題に対応することができた。</p> <p>② 各学年主任と管理職との緊密な連携はとれた。学年間の生徒情報共有は適宜適切に行われたが、学年主任連絡会議の定例化には至らなかった。</p> <p>③ 校長(及び教頭)と主任・部長との面談は年度当初に限らず適宜行われ、連絡相談体制が定着した。</p> <p>④ 各部署からの連絡・報告は主任・部長を通じ教頭に集約する体制が確立しており、学校課題に対して組織的な対応がとられている。</p> <p>⑤ 年間2回の授業公開期間を中心に校長による全職員の授業参観を実施し、教員とのコミュニケーションの契機とした。</p>	<p>① 学年会議の定例化は継続し、教科会議や分掌会議についても引き続き適宜開催して、学校課題の明確化と解決策について共通理解を図る。</p> <p>② 学年主任連絡会議の定例化を引き続き目指すが管理職と学年主任、学年主任間での生徒情報の報告と共有は適宜行うこととする。</p> <p>③ 校長による主任・部長との面談は適宜実施し、学年・分掌・教科での当面する課題の共有を図ることとする。</p> <p>④ 継続して、学校課題に対しての組織的対応を確認し、定着させたい。</p> <p>⑤ 次年度も年間にわたって、校長による「授業参観」を実施し、教員とのコミュニケーションを図ることとする。</p>
	<p>3 不祥事を起こさない職場づくりについて</p> <p>① 年間3回の目標申告と能力発揮にかかる管理職と職員との面談だけでなく、通年にわたって校長、教頭とも、授業及び校内巡視を行い、職員とのコミュニケーションに留意した。</p> <p>② 不祥事関係の情報は、新聞記事等を用いて教頭が朝会で具体的に示し、指導の機会とした。(4月～1月末で、24回)</p> <p>③ 「開かれた学校づくり委員会」を計画どおり年3回開催(うち1回はミニ集会)、また青問協の会合には校長が2回出席し、開かれた学校として地域との連携を強化した。</p> <p>④ 9月に実施したストレスチェックの結果分析に基づいて衛生委員会を実施し、職場としての集団評価について検討した。</p>	<p>① 管理職と教職員及び教職員同士のコミュニケーションを活発にするための、各種面談、授業参観、校内巡視等を継続して行う。</p> <p>② 法令遵守意識を涵養するための、新聞記事や事例に基づいた具体的情報提供や指導は継続する。</p> <p>③ 開かれた学校経営のために「開かれた学校づくり委員会」や地域(自治会・青問協)との連携については引き続き強化を図る。</p> <p>④ 衛生委員会を活用して、引き続き、教職員の心身の健康管理状況の把握と、必要な指導及び助言を行う。</p>
	<p>4 今後の計画の策定と段階的实施について</p> <p>① 「将来計画検討委員会」を二回開催し、外部からの意見もふまえて、重点校指定解除後の本校の方針について検討し、検討結果を全校に周知した。</p> <p>② 学校評価アンケート結果でも新たに課題となった「学力向上」に関して、その取組みに向けた準備を開始した。</p>	<p>① 若手職員の有志参加を促すなど「将来計画検討委員会」のより一層の活性化を図る。</p> <p>② 学校としての共通の研究課題として「基礎学力の定着に向けた学習改善」に取り組み、将来にわたる学力向上の方策についても検討する。</p>

領域	自己評価の結果 (達成状況、結果の分析)	改善方策 (自己評価の結果を踏まえた課題・改善の方向)
学習指導	<p>① 学校評価の生徒アンケートのうち、「先生の授業の工夫」「授業内容の理解」「学力の向上」の項目が、それぞれ75.5%、75.0%、55.3%であり、生徒の授業満足85%を目指した目標には総じて届かなかった。また、生徒による授業アンケートは実施科目が限られたが、実施した科目では低評価は見られなかった。</p> <p>② 年間2回の授業公開週間を計画通り実施した。また、初任教諭3名、五年経験教諭5名、及び国語科と地歴公民科の全教員の研究授業を実施して授業改善に向けて協議を行った。</p> <p>③ 学年による朝自習の取り組みで、学び直し教材を着実に進捗させ、基礎学力の向上を目指した。</p> <p>④ 校長の授業参観にかかる指導助言により、職員の授業改善へのモチベーションを高めた。</p>	<p>① 次年度は「学校評価」生徒アンケートで低い評価だった「学力の向上」を課題としたい。生徒、保護者、職員のそれぞれが求める学力とは何かの分析から始め、目標として、生徒による授業評価の満足度85%以上を目指す。また、原則として全授業での生徒アンケートを行い、学習意欲についての実態を数量的に明確化する。</p> <p>② 次年度は、「基礎学力の定着に向けた学習改善」を学校としての共通の研究課題として取り組む。その中で、授業公開、研究授業等を位置づける。</p> <p>③ 次年度に取り組む、基礎学力定着に向けた学習改善の中で、朝自習を中心的实践として位置づけ、授業との効果的な連関についても研究する。</p> <p>④ 上記研究課題の取り組みの一環として、授業についての管理職の指導助言を行う。</p>
生徒指導	<p>① 学校評価の生徒アンケートで、生活指導関連の三項目での肯定的な評価の割合は、90.1%、73.9%、71.6%であり、保護者アンケートの同三項目では、91.0%、84.0%、88.8%が肯定的評価であり、概ね高い評価を得ている。</p> <p>② 生徒面談週間、保護者面談週間を年間にそれぞれ2回ずつ実施し、家庭との連携をふまえた生徒理解を進めた。</p> <p>③ 特別支援校内委員会を兼ねた教育相談委員会での情報交換を週1回定期的に行い、生徒指導部と学年の密な連携が図られている。</p> <p>④～⑦ 多くの生徒が落ち着いた学校生活を送っており、問題行動等の発生は減少している。また、今まで積み上げてきた指導が各学年ともに浸透しており、学年・担任と保護者との緊密な連携が実行できている。</p>	<p>① 遅刻を繰り返す生徒の指導、及び自転車通学生徒の指導、そして SNS の使用方法等は更なる指導への工夫が必要である。</p> <p>② 引き続き、保護者との連絡を密にし、学校の教育活動への理解と協力を求めていく。</p> <p>③ 教育相談委員会との連携をさらに密にし、生徒が安心して学校生活を送れるように職員間の共通理解を深める。</p> <p>④～⑦ 欠席・遅刻・早退の数を減らすことを目指し、遅刻については特に段階的に指導を行う。</p>
キャリア教育	<p>① 「学校評価」アンケートの進路指導に関する項目において肯定的回答の割合は、生徒で、79.3%、保護者で84.1%で、高い評価が得られた。</p> <p>② 1年進路ガイダンス（11月上級学校等バス見学2月進路講演会）、2年進路ガイダンス（6月進路講演会11月分野別・2月合格体験談）、3年（4月）分野別説明会・進路ガイダンス（5月面接指導Ⅰ・分野別・6月面接指導Ⅱ）就職説明会（5回）・内定者セミナー（1月）大学短大説明会・専門学校説明会（5月入試全般・9月推薦入試・内定者指導）、その他必要に応じて説明会・面接指導を実施した。難関大学（千葉県立保健医療大・神田外語大など）に推薦入試で合格、学校推薦による就職内定率は9月で86.2%（昨年比8.4ポイントアップ）の結果を示した。</p> <p>③ 進路情報を公開し、県の就職支援事業の指定を受けた企業訪問を実施した。（30社の内12社で内定）</p> <p>④ 個別相談と個別指導の充実により、高い就職内定率を示した。</p>	<p>① 保護者に対する進路情報を充実させる。</p> <p>② 計画的な進路ガイダンスや内容の充実を図る。また、法典タイムや LHR を有効に活用し、個々の生徒の進路希望に対応した進路指導を心がける。また、毎月の「進路News」の発行、適宜「学年進路ニュース」の発行により進路進捗状況の共有を図るなど、進路指導部と学年の連絡を密にして、関係のとれた指導を行う。</p> <p>③ ホームページ等を利用し、進路情報の発信を充実させる。</p> <p>④ 引き続き、進路室・資料室の整理整頓・整備に心がけ、より生徒が相談しやすい環境を整え、進路室等の使用頻度をさらに高める。</p>
特別活動	<p>① 緑城祭では、生徒会と公募生徒で実行委委員会を組織し、開閉会式など主体的な運営をすることができた。各企画ではアトラクションなど、より発展した企画内容を成功させたクラスをはじめ、文化系部活動による創作意欲溢れた発表が増えた。</p> <p>② 4月末日の部活動加入調査で、加入率64%である。定着率も高く、県大会等で活躍する部活動も増えている。部活動の活性化が、学校生活全般の安定につながっている。</p> <p>③ 生徒は困難な場面でも共通の目標にむかってチームワークよく最後までねばり強く取り組んでいた。</p>	<p>① 行事終了後にアンケートを実施して問題点を整理し、改善の手がかりとする。（年度末までに行事ごとの改善点をデータ化し、次年度に向け、確実に引き継ぎができるようにする。）</p> <p>② 部活動の活性化を維持することで、今後も加入率・定着率の向上を図る。</p> <p>③ 生徒会行事の活性化のため、生徒会本部役員や各委員会により生徒活動の高揚を図る。</p>

